

(様式 6 - 1)

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	谷山緑地再生計画 (グリントプロジェクト) -公園機能と魅力の向上を目的とした調査及び提案-
助成事業者	鹿児島大学大学院 理工学研究科
代表者	増留 麻紀子

(目的)

鹿児島県谷山緑地の再生化の一助とするため、国内のアートを活用した建築による地域づくり、まちづくり、地産地消(地域経済活性)に寄与する調査研究と活動を地方自治体と連携し実施する。

(概要)

緑とアートをテーマとした建築の先進事例調査を実施し、施設としての形態デザインや周辺との関係、運営方法、イベント内容などに着目した調査と分析・考察を実施した。アートを援用した様々な運営においては、運営事業体にアートに造詣があり、経営者としての資質を持つ人材が必要であり、基本方針、基本設計から実際の管理運営に至るまで、それら人材が継続してプロジェクトに携わることが重要である。これらは事業主体である行政、実行者である事業者共に必要であり、昨年度の調査結果とも一致していると考えられる。

調査した建築施設はどれもアート性の高い特徴的な建築物であり、アートを活用した展開に適した環境を整えていると言え、アートを利用したコンテンツや空間作りにより、施設への誘引力形成に繋がっていることが確認できた。また、アートの活用については、アートワーク(作品)を設置することが重要というよりも、アートを活用することでアート性のある空間作りができることが重要であり、参加者は単なる鑑賞者ではなく、アートイベントやプロジェクトのプレイヤーであるという意識をもつようなものが有用であるという認識に至った。谷山緑地再生を促進する意味において周辺住民を巻き込んでいくことが重要であり、そのための人材作りも重要である。

今回の調査研究では、アートによる地域活性化を先進的に進めている青森県の5カ所の施設で調査を実施し、谷山緑地への援用の可能性を確認した。そして、今後の谷山緑地再生計画を推進するためのアートイベントの検討と提案を行った。提案したアートイベントは屋外での開催であるため、開催時期を3月下旬に設定した。このため本調査研究の報告後に開催されるが、イベントの成功を願っている。そして、谷山緑地の特徴の一つである4kmの長さを活かし、全長に亘る「緑月灯」を将来的には開催したいと考えている。この活動は、谷山緑地や地域活性化のためにも進めていくべき課題であり、次年度以降も継続することが必要である。